

## ひき縄漁具の被害防止等(お願い)

### 1 「白石礁」で遊漁する際の留意事項

「ひき縄」の漁具の長さは、200m程度あります。

**ひき縄漁船の後方近くでは遊漁しないとともに、自船を移動する際には、漁船の動きや漁具の長さに十分留意してください。**

経ヶ岬沖の「白石礁」では、地元漁業者(蒲入地区等)により、ブリ類を対象とする「ひき縄釣り」が周年行われています。

近年、白石礁では、「ひき縄」の漁具(幹縄等)に、遊漁船やプレジャーボートの漁具が絡まり、また、漁具が切断される被害が継続発生しています。

#### ★遊漁の漁具が絡まる例等

##### ■ 錨止め遊漁(フカセ釣り)の場合

マダイを対象とする完全フカセ釣りの場合に、遊漁の漁具が海中に相当長く(100m以上)出ているような時に、漁船のひき縄漁具と絡まるケースがあります。

##### ■ 流し釣り遊漁(ジギング、ルアー)の場合

漁場を移動しながら操業する際に、ひき縄漁船の後方近くで、遊漁の漁具を投入すると、漁船のひき縄漁具と絡まるケースがあります。

また、漁船が魚を取り上げ、再度、漁具を沈めようとしている時に、遊漁船等で漁船の後方近くを横切ると、ひき縄漁船の漁具を切断する場合があります。

【漁業者は、周辺状況を十分確認し、遊漁船やプレジャーボートから離れて操業するようにしていますが、遊漁船等の発見が遅れる場合があります】

【漁具は、漁業者が大切にしていますので、勝手に切断しないようお願いします】

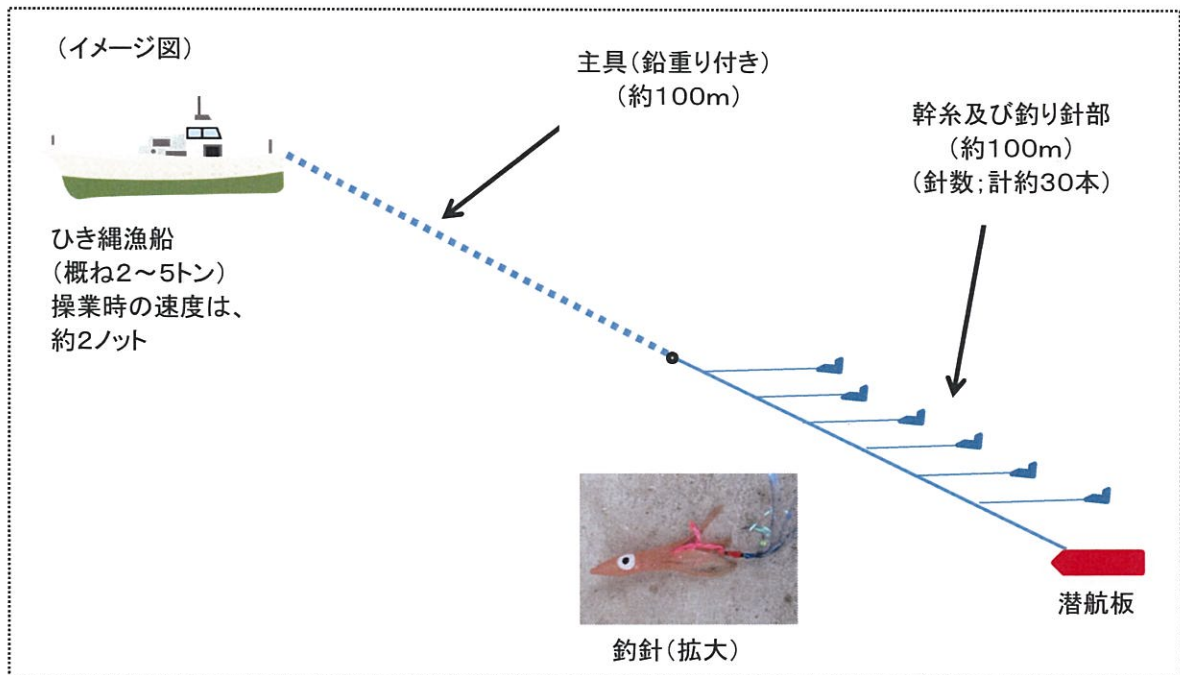
### 2 ひき縄漁業の特徴

操業漁船 2～5トン程度

操業方法

- ・船尾からひき縄(約200m)の漁具を投入し、2ノット程度で中低層を曳航し、ハマチやブリ等を漁獲します。
- ・魚を漁獲した場合は、漁船をストップし、漁具を引き上げます。また、その後、再度、海中へ漁具を投入して、操業を繰り返します。
- ・魚群探知機で魚を探索しながら、白石礁の広範囲で操業します。

# 「ひき縄」漁具の概要等



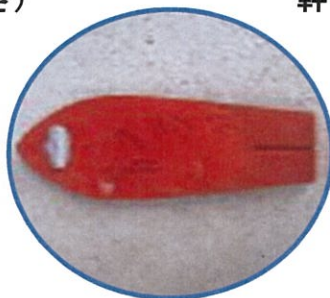
- ひき縄漁具の長さ(漁船から潜行板まで)は、約200mあります。
- 漁具の投入時は表層にあり、漁船で曳航すると潜航板により、漁具が中低層まで沈むようになっています。



ひき縄の主具(鉛重り付き)



幹縄と釣り針(針数; 約30本)



潜航板(8~10号、約30~40cm)

**漁船の後方近くでは遊漁の漁具を投入しない、また自船の移動時には漁船の動きやひき縄漁具の長さに十分留意してください。**